

# 工学部新聞 NO.20 国内外インターンシップ特集

平成28年1月発行

「就活不安な人・地元大好きな人こそ、ちょっと海外に思いを馳せてみて！」

昨年11月1日に芝浦工業大学豊洲キャンパスでおこなわれたトビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム成果報告会にて、本学部4年の土屋みなみさんが優良発表者賞を受賞しました。同プログラム1期生として2014年9月から2015年5月末までの9ヶ月間、ドイツ・ザクセン州ドレスデンにあるザクセン州経済振興公社にてインターンシップを経験したとのこと。この時期に改めてインタビューしてみました！



写真左：同報告会表彰式にて、馳文部科学大臣と握手している様子。

写真右：学部長記者懇談会出席時の写真。



Q: 留学に興味をもった・留学しようと思ったきっかけは何ですか？

A: 英語を話せるようになりたいとか、留学している友達がかっこよく見えたとか、単純な理由で留学に憧れていました。また、環境を変えて自分のやりたいことを見つけたいとも思っていました。大学入学以来、興味のあることに浅く広く挑戦していたのですが、結局何がしたいのか分からなくなってしまって…。公務員試験の勉強をしたり、大学主催の企業説明会に行ったり、東京へ官庁見学に行ったり、進学を考えたりと悩んでいました。そんなとき、掲示板で留学するチャンスを見つけたんです。それが、トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム。運命の出会いでした。

Q: トビタテ！留学JAPANとは？

A: 一言でいうと、「自分なりの留学プランを作り、採用されると返済不要の奨学金を頂戴して留学できる」制度です。英語力・成績・海外渡航経験不問。大学に行かなくてもOKで、渡航費＋現地授業料の一部＋生活費12～20万円/月という手厚い経済的支援を受けられます。プランの例としては、スペインでプロのフットサルリーグに出場、ミャンマーで入院患者にアクセサリを作ってもらい、それを売ったお金を病院の運営資金にする制度をつくるボランティア、農業の盛んなフランスとオーストラリアでフィールドワーク、オーストリアのウィーンでオペラの研究等、多種多様です。そして何より、個性が強すぎる全国の仲間たちと出会えるのが、この制度から得られる何よりの財産です。

Q: 選考について教えてください。

A: 一次選考は書類審査で、二次選考は面接・グループディスカッション・プレゼンテーションです。二次選考の面接では企業の人事の方が面接官をさせていただきます。トビタテ！のプロジェクトマネージャーは、「『こいつは面白い！行かせたい！』と思う人を合格にしたい」そうです。つまり、合格基準は「情熱」とそれを「うまく伝えきる」といえるでしょう。一年間に2回チャンスがあり、合格するまで何度でも挑戦可能なおうえ、2020年までは継続が決まっています。3期生がトビタっているところですが、今のところ全期に山大学生が合格しているんです！

## ～目次～

### 1、2ページ

- トビタテ！留学JAPAN  
成果報告会優良賞受賞者  
インタビュー

### 3ページ

- 山形県工業技術センター  
で研究員のインターン  
シップに参加しました。

### 4ページ

- お詫びと訂正
- 今後のお知らせ
- 編集後記
- 2015年度工学部新聞部  
メンバー

Q: 留学前に頑張ったことはなんですか？

A: 語学力の強化もですが、それ以上に**異文化理解力をつけておくこと**を意識しました。言語よりそういった感覚の方が、慣れるのに時間がかかると思ったからです。日本人同士でも、各個人によって見てきたもの、食べてきたもの、考え方も違うのですから、広い意味で“異文化”をもっていると思います。そう考えると、異文化理解力は誰にでも必要なのではないでしょうか。

Q: 楽しかったこと・大変だったこと・成長したことを教えてください。

A: 楽しかったことは、「**インターン生**」でなく「**一同僚**」として扱ってもらえたことです。最後の出勤日に御礼の意味も込めて職場で小さなパーティーを開くことにしたのですが(ドイツでは、送られる人や誕生日の人等、主役の人自身がパーティーを開きます)、呼びかけるのが遅かったにも関わらずお忙しい中、課内の同僚全員が来て下さり、本当にありがたかったです。皆さんがドイツ語のほとんどできない私を受け入れて下さり、仕事ぶりを認めて伸ばしてくれ、毎日頑張る気力をもらっていました。

大変だったことは、**自分が「したいこと」と「できること」とのギャップを知る**ことでした。現地では半年間、インターンと並行して、大学で英語による授業を聴講しました。単位を取る必要はなかったのですが、1科目だけテストを受けレポートも書くことと自分に約束。結果、テストでは合格点を得たものの、レポートは仕事や他の活動との兼ね合いでできず、自分の計画力のなさを痛感しました。

成長したことは、「東北に残って世界とやり取りする仕事がしたい」という**将来のビジョンが少し見えてきたこと**と、**悩むことを楽しめるようになったこと**です。**留学前と変わらず今でも悩みながら過ごしていますが、「自分がしたいこと、すべきことを楽しく一生懸命にしていれば道はおのずと拓けてくる」と**思えるようになりました。悩めること・考えられることは成長につながるというのが持論です。「これでいい」と思ってしまったら、成長がとまってしまう気がするのです。

Q: 留学を終えて感じたことは？

A: 逆説的かもしれませんが、「**就活が不安な人、地元大好きな人にこそ少し海外に思いを馳せてみてほしい!**」と強く思いました。「就活が不安だから留学できない」という声を、私の周りでも耳にします。でも、それってもったいない! この状況を打破しようと、最終的な受け皿である**企業からも奨学金のための寄付金を募っている**のがトビタテ! 留学 JAPANです。現に2015年12月27日現在172社の会社から108.5億円もの支援があり、企業も留学に賛成していることが分かります。就活の遅れや留年を心配して留学を諦めなくても良いんです!

それから、「地元の中小企業に勤めるから、海外なんて関係ない」という方、残念ながらそれはNOのようです。理由は二つ。一つ目は、日本の中小企業の方々がドイツの工場や研究所などへ視察に来るたびに、海外進出へむけて精力的な様子を目の当たりにしたからです。二つ目は、外に出て改めて地元の良さ・改善点が見えてくるからです。例えて言うなら、実家から離れて初めて家族のありがたさが分かるようなもの。

「海外に目を向ける＝興味のある人がすること」という方程式はもう成り立ちません。だから、就活が不安な人や地元好きな方々にこそ、留学でなくても海外のニュースを気にかけてたり、ちょっと英語の勉強を頑張ってみたり、できる範囲でチャレンジしてほしいです。

Q: 最後にみなさんにメッセージを!

A: **留学がすべてだとは思いませんが**、山形大学には、留学以外にも短期(数日～数か月)の海外派遣プログラムや、山形大学にいながらにして留学生と交流できる機会が多くあります。そのような**機会を、自分がしたい範囲で大いに活用してみてください!**

語学学校の友人たちと ベルリンにて



日本でも有名な  
クリスマス  
ケーキ:  
シュトレン↓



↑オクトーバーフェ  
ストにて  
初対面のイタリア人  
と笑



エルベ川沿いの風景



## 山形県工業技術センターで研究員のインターンシップに参加しました。

5日間という短い期間ではありましたが、研究職の方と直接話ができる貴重な経験となりました。自分を見直し、将来について考えることができました。

〈実習先〉 山形県工業技術センター  
(食品醸造技術部、化学表面技術部、特産技術部)

〈実習期間〉 平成27年8月31日～9月4日(5日間)

〈実習内容〉

- 1～3日目 食品醸造技術部  
…微生物試験、消費期限と賞味期限の違い・お酒の作り方についての講義
- 4日目 化学材料表面技術部  
…分析機器を用いた異物の検出実験
- 5日目 特産技術部  
…引っ張り試験や摩擦試験、耐光試験など布の良し悪しを測るための様々な物性試験

〈体験者〉 菅野 育美 (バイオ化学工学専攻1年)

### ～目的と学び～

目的①：社会人とアルバイトの違いを明らかにし、社会人になるための心構えをする

学び①：違いはやはり責任の重さだと感じました。仕事をする上で気を付けていることを伺ったところ、メモをとって発注を忘れないようにすること、証明数値にミスがないよう確認すること、メールの誤送信をしないことなど、「失敗しないこと」を挙げる方が多かったからです。「いざという時が来ないようにするのが日々の務め」という言葉も受け、今後は「“極力”失敗しないようにしよう」ではなく、「絶対”失敗しないようにと意識を改善したい」と思いました。

目的②：研究職についての理解を深め、今何をすべきか考える

学び②：仕事の楽しさを伺ったところ、当センターは県内企業の駆け込み寺的存在であり「メーカーさんから相談を受けて解決できたときはうれしい」、研究を通して「仕事の一端で勉強ができる」というお話がありました。苦勞としては、「これから流行るものを先駆けて研究しないとブームに乗り遅れて売れなくなる」とことと伺いました。そのため常に最新の研究内容に目を向け、今後の流行を予測するそうです。このようなことから、**新しい発見をできることが研究職の楽しさ・やりがいであり、そのために常に情報収集して学び続けることが大切だ**ということが分かりました。自分の今やっている研究においても、情報収集し続ける習慣をつけたいです。

また、学生実験で行ったことのある微生物試験や、使用したことのある分析機器を用いた実験を行い、大学で学んだことが活かせることが分かりました。物性試験では、布の良し悪しを測るための試験が10種類以上もあることに驚き、ものを評価するには複数の方法を用いる必要があることを改めて実感しました。

### 昨年のインターンシップの流れ

4月下旬 インターンシップ説明会  
(本学が掲示するもの)

- ・受入企業は約180(全学部対象)だった。
- ・受入人数は事業所により異なる。
- ・10日間で2単位、20日間で4単位が認定される。

5月初旬～中旬 求人検索NAVIで申込

- ・第三希望まで入力可。第一希望は400～600字の志望動機をアップロード。
- ・5号館2Fのキャリアサービスセンターで添削してもらえ(要予約)。

5月下旬 実習先の決定(抽選)

- ・就職支援室からメールで通知。

6月初旬 事前研修・実習メンバー打ち合わせ  
& インターンシップマナー研修

- ・メンバーで連絡先を交換。リーダーを決める。
- ・マナー研修では特に実習先へのメールの書き方がとても勉強になった。

～7月初旬 事前レポートの作成

- ・インターンシップの目的などを考え、事前レポートを作成し、求人検索NAVIにアップロード。

～7月中旬 実習先へ書類を郵送

- ・履歴書と誓約書のコピーをリーダーがとりまとめ、郵送。添え状もあるとベスト。
- ・公務員関係は学サポに提出。

～実習前日 実習先へ事前訪問

- ・リーダーが企業の方と連絡をとり、日程・時間を決定し、メンバー全員で事前訪問する。
- ・実施しないところもある。

7月下旬～9月下旬 インターンシップ

- ・初日に企業の担当者に所見をお願いしておく。
- ・毎日実習日誌に実習内容を書く。

実習終了後 成果報告書の作成&お礼状の郵送

- ・事前レポートに対応させて成果報告書を作成し、求人検索NAVIにアップロード。
- ・お礼状を作成し、郵送。添え状もあるとベスト。

12月中旬 インターンシップ報告会

## 食品醸造技術部の方々にインタビュー！！

Q1. 大学での研究と現在の仕事内容は同じですか？ Q2. 大学で学んだことを活かしていると感じたのはどんなときですか？  
Q3. 就職の決め手は何ですか？ Q4. 働く前と後でイメージにギャップはありましたか？

●山大理学部出身/食品/女性→A1. 違う。大学では水質分析。A2. 細菌検査、試薬の取り扱い。A3. 食品に興味があった。A4. 分析が少なく、開発が多かった。●山大工学部出身/食品/男性→A1. 違う。大学では医療系。A2. 試行錯誤。A3. タイミング。A4. 自分が食品が好きなの事があった。自分次第で食品をおいしくできる。●新潟大理学部出身/醸造/男性→A1. 違う。大学ではアルコール分子について。A2. 計算。A3. 研究が好きだった。A4. 他の公務員とは違う。●山大教育学部出身/醸造/男性→A1. 違う。大学では有機化学。A2. 新しいものを作る力。A3. 研究がしたかった。A4. 人との関わりが深い。

## お詫びと訂正

工学部新聞No.19の紙面p3,4において、都甲瑛慧さんの漢字に間違いがありましたことを深くお詫び申し上げます。都甲**瑛**慧さんとしておりましたが、正しくは都甲**瑛**慧さんです。

紙面p4において、渡邊優さんのふりがなに間違いがありましたことを深くお詫び申し上げます。わたなべすぐるさんとしておりましたが、正しくはわたなべゆうさんです。

大変失礼いたしました。

## 今後のお知らせ

## ○雪合戦大会

日時：2月13日(土)

場所：工学部グラウンド

## ○雪灯籠まつり

日時：2月13日(土)

・14日(日)

場所：上杉神社周辺

## ○工学部合同企業説明会

日時：3月5日(土)・6日(日)

場所：米沢市営体育館

## ○学位記授与式

日時：3月20日(日)

場所：米沢市営体育館

## ○エコバザー

日時：3月下旬

場所：工学部体育館

## 編集後記

本誌第10号より作成に関わらせていただき、第15号からは名ばかりの編集委員長を務めさせていただきました、土屋みなみです。本号をもちまして、4年間お世話になった新聞部を卒業させていただくことになりました。この編集後記で御礼に代えさせていただきます。

活動を一言で振り返ると、「多くの『出会い』に恵まれた」といえます。取材に協力してくださった方々、事務の方を含めた入れ替わるメンバーはもちろんですが、特に貴重なのは新たな自分との出会いです。文章を書いたり推敲したりする力を改善できた自分。“編集長”と気負いしてしまい、ワンマンで話し合いを進めてしまっていた自分。他の人の意見を聞き入れることに抵抗があったのに、メンバーからのアイデアを素直に吸収できるようになった自分などなど…。プラスな気づきもマイナスな気づきもすべて、この工学部新聞によって得たものです。新聞を作成する以上の多くを学ばせてくれたことに、心から感謝しています。新たな自分を発見したい方、ぜひ工学部新聞編集委員をその選択肢のひとつにしてみてください！

これからもここで得たものを生かして日々精進していきたいと思ひますし、陰ながらしかし全力で新聞部を応援させていただきます。読者の皆さんも、引き続きご支援のほど何卒よろしくお願い致します。

改めまして、本当にありがとうございました!!

## 2015年度工学部新聞部メンバー

- 土屋みなみ(応用生命システム工学科4年)…新聞部4年目。紙面p1,2の「就活不安な人・地元大好きな人こそ、ちょっと海外に思いを馳せてみて！」担当。
- 菅野育美(バイオ化学工学専攻1年)…新聞部3年目。紙面p3の「山形県工業技術センターで研究員のインターンシップに参加しました。」担当。
- 渡邊健一郎(機能高分子工学科3年)…新聞部2年目。
- 荒引陽(応用生命システム工学科3年)…新聞部2年目。
- 山下豪(機能高分子工学科4年)…新聞部1年目。
- 蒲地勇治(物質化学工学科3年)…新聞部1年目。
- 高橋佑佳(機械システム工学科2年)…新聞部1年目。

♪新聞部に興味のある方は下記の連絡先までお気軽にご連絡を(^o^)/

☆各種の活動や受賞、表彰などを掲載させていただきます。

連絡先→Tel: 0238-26-3419

E-mail: koukoho@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

☆本誌のカラー版がPDFでご覧になれます。山形大学工学部新聞で検索！

ホームページ→<http://www2.yz.yamagata-u.ac.jp/shinbun/index.html>



忘年会の様子

みんな仲良くやっています☆  
あなたも仲間になりませんか？